肥料と農薬の情報誌

肥料農薬レポート

08

No.312

summer

果樹（かんきつ）病害虫防除について

今年の梅雨は降水量も少なく、梅雨明けも早かったため、全国各地で水不足が問題視されており、水稲を始めとする農作物への影響が懸念されています。また、６月より真夏の暑さが続いており、害虫や薬害の発生リスクが高まる事による今後の農作物管理への影響が心配されます。皆様も小まめな水分・塩分補給を行って体調には十分にご注意いただき、暑い夏を乗り切っていきましょう。さて、今回は果樹（かんきつ）病害虫防除と石灰質資材について取り上げました。

1．果樹（かんきつ）における病害虫の発生状況

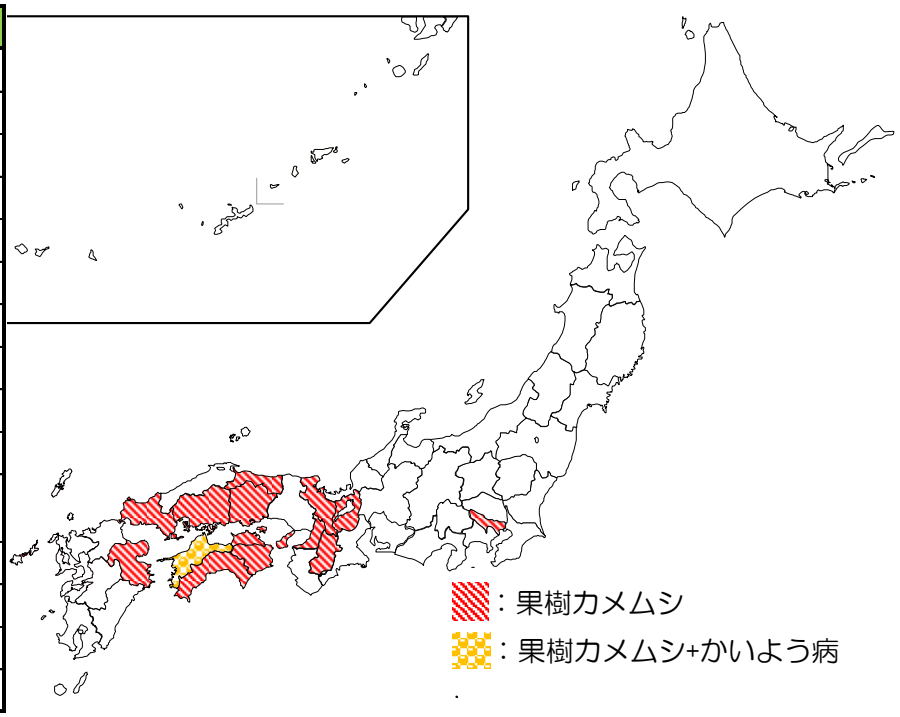
害虫では、今年度、西日本を中心に果樹カメムシ類が多発生しています。昨年度は６県から注意報が発出されましたが、今年度は７月 12 日時点で既に 14 県から注意報が発表されています。福岡管区気象台が７月７日に発表した九州北部地方１か月予報によると、向こう１か月の気温は平年より高い確率が 60%と予測されており、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想されています。

病害では、かんきつかいよう病の発生が増加しており、愛媛県では５月 31 日に注意報が発表され、長崎県でも６月 15 日に防除情報が発表されています。今後も発生程度は「多」と予想されていることから注意が必要です。

注意報発生都道府県
(果樹カメムシ：14県　かいよう病：1県)

発表日	都道府県	病害虫名
2022/7/12	広島県	果樹カメムシ類
2022/7/8	徳島県	果樹カメムシ類
2022/7/8	大分県	果樹カメムシ類
2022/7/7	東京都	果樹カメムシ類
2022/7/6	大阪府	果樹カメムシ類
2022/7/4	滋賀県	カメムシ類
2022/7/4	山口県	果樹カメムシ類
2022/7/1	京都府	果樹カメムシ類
2022/7/1	岡山県	果樹カメムシ類
2022/6/27	鳥取県	果樹カメムシ類
2022/6/9	高知県	果樹カメムシ類 (ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ、ﾂﾔｱｵｶﾒﾑｼ)
2022/5/31	愛媛県	果樹カメムシ類
2022/5/30	奈良県	果樹カメムシ類
2022/5/24	香川県	果樹のカメムシ類
2022/5/31	愛媛県	かいよう病

令和４年度　果樹カメムシ、かいよう病に関する注意報発表状況



2. 果樹カメムシ類およびかんきつかいよう病について

ここでは果樹カメムシ類、かんきつかいよう病の被害および発生時期についてまとめております。果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシが重要種として知られています。かんきつでは開花期以降、園内への飛来があり、大量飛来は落果被害を引き起こす恐れがあります。特に山林付近での園地で被害が多発するため注意が必要です。

かんきつかいよう病は主に葉・枝・果実に発生します。初め淡黄色・水浸状の小斑点を生じ、次第にコルク化して表皮が破れ、表面がガサガサし亀裂を生じる場合があります。葉では病斑周縁は濃緑色・水浸状でその周りに黄緑色の縁取りができるのが特徴です。

果樹カメムシ類とかいよう病の被害と発生時期について

：病害虫発生時期　：発生量の多い時期　▼：散布剤

病害虫名	害虫写真	概要と被害	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬	6月 上旬	6月 中旬	6月 下旬	7月 上旬	7月 中旬	7月 下旬	8月 上旬	8月 中旬	8月 下旬	9月 上旬	9月 中旬	9月 下旬	10月 上旬	10月 中旬	10月 下旬
果樹カメムシ類	チャバネアオカメムシ	チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシが重要種。 越冬害虫の被害と7月頃から発生する次世代の飛来による被害がある。 発生源としてスギ・ヒノキが挙げられ、球果の結実量の多少が、カメムシの発生量および果樹の被害の多少に大きく関与している。 果実を吸汁加害するため、落果や果実表面へのくぼみが生じるなどの被害が発生する。												▼	▼	▼										
かいよう病		細菌による病害。病原菌は病斑中で越冬する。春季に降雨があると病斑中の菌が増殖し細菌が表面に染み出し、雨によって飛散伝染する。傷口があると容易に侵入する。防風樹・防風垣の園周辺への植付け、食害害虫（ハモグリガ等）の防除を行う。薬剤防除は発病前の防除を重点的に行う。					発芽前 ▼			落弁期 ▼				梅雨期 ▼					台風前 ▼								

越冬量が多い年には飛来状況を観察し、飛来初期に防除をすることが重要。

台風により発生が多くなるので、台風の通過前に防除を行う。

3. 果樹カメムシ類およびかんきつかいよう病の薬剤防除について

ここでは果樹カメムシ類とかんきつかいよう病の防除についてまとめております。果樹カメムシ類は薬剤防除を中心に行いましょう。防除上は予察灯への誘殺状況による侵入時期の把握や好餌植物であるスギ、ヒノキなどの発生状況をつかむことが重要です。

かんきつかいよう病は細菌による病害のため防除が難しく総合的な防除が必要となります。防風対策や夏秋梢新芽の早期摘み取り、発病した夏秋梢の除去等を徹底しましょう。また窒素過多にならないように注意することも重要です。薬剤散布では発病前の散布、食害害虫（ハモグリバエ等）の防除を行うことが必要です。台風が予測される場合は、その前に散布を行いましょう。以下に、主な薬剤をまとめております。

果樹カメムシ類およびかいよう病に使用できる主な薬剤

対象病害名	薬剤名	IRACコード	使用濃度	使用時期	使用回数
果樹カメムシ	MR.ジョーカー水和剤	3A	2,000倍	収穫14日前まで	2回
	ロディー乳剤	3A	2,000倍	収穫7日前まで	4回
	テルスター水和剤	3A	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回
	アクタラ顆粒水溶剤	4A	2,000倍	収穫14日前まで	3回
	スタークル顆粒水溶剤	4A	2,000倍	収穫前日まで	3回
かいよう病	カスミンボルドー（みかん）	24 M01	1,000倍	収穫7日前まで	5回
	カスミンボルドー（かんきつ(みかん除く)）		1,000倍	収穫45日前まで	5回
	ICボルドー66D	M01	25～200倍	ー	ー
	コサイド3000	M01	1,000倍	発芽前	ー
			2,000倍	生育期	

※カスミンボルドー、コサイド3000には薬害軽減対策としてクレフノン（200倍）を加用する。

※ＩＣボルドーには新梢成長期に石灰による葉焼けを生じる恐れがあるので、薬害軽減対策としてアビオンＥ（1,000倍）を加用する。

いまさら聞けない！かんきつの基本管理！
～ミカンは石灰が大好き～

①はじめに

近年、異常気象の発生が顕著になってきており、それに伴いかんきつの生産量や品質に関するさまざまな悪影響が現れ始めています。このような中で高品質安定生産を図るためには、気象に応じた適切な管理が大切なのはもちろんのこと、それ以前に、それぞれの管理対応が効果を発揮できるような健全な樹体を維持しておくことが必要となります。

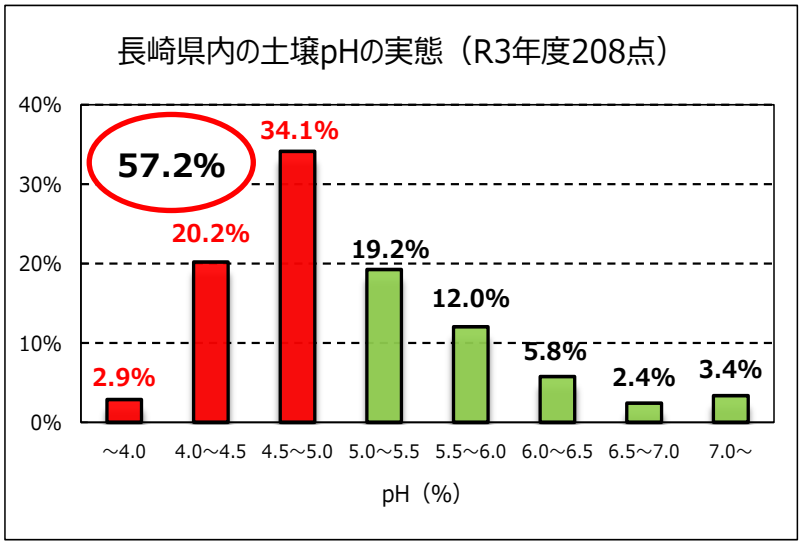
ここでは土壌管理の基礎となる石灰に触れて、かんきつと石灰の関係性についてまとめています。

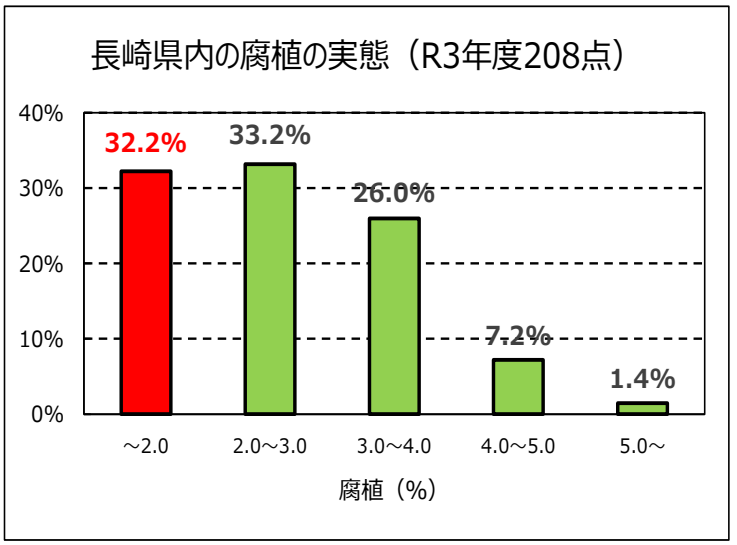
②土壌診断結果からみた長崎県内の現状と対策

令和３年度に診断した県内のかんきつ土壌の pH 値を下記グラフに示しています。長崎県の基準では果樹園（非火山灰）の適正 pH は 5.5～6.5 とされています。しかし、分析したミカン園の 57.2%が pH5.0 未満の酸性土壌となっています。雨の多い日本では石灰は流されてしまい、何もしないと pH はどんどん下がり、やがて酸性土壌となるため要注意です。土壌が酸性だと、窒素・リン酸など肥料の効きが悪くなり樹勢低下を引き起こす原因となります。

pH5.0 未満の園地では、今まで以上の石灰質資材の投入が必要です。pH5.0 以上の園地でも年間 100kg/10a 程度の石灰質資材を施用するようにしましょう。

また、pH 同様に腐植の実態もグラフに示しています。目標の 2.0%を下回る地点が３割を超えています。腐植は根の活性化による肥料の吸収効率の向上、土壌物理性の改善、土壌微生物の活性化、保肥力の向上など多くの効果があります。目標値を目指して堆肥等の有機物（腐植）の投入を行いましょう。





③本会おすすめ pH 改良・腐植酸含有資材

アルカリ分 48%、苦土 7%。カルシウムとマグネシウムを同時に補給できる。かき殻を原料としミネラル分を含む。

施用量(目安)：100～200kg/10a

アルカリ分 53%、苦土 10%。国内産天然のドロマイト鉱石を使用。緩やかな pH 矯正が可能。

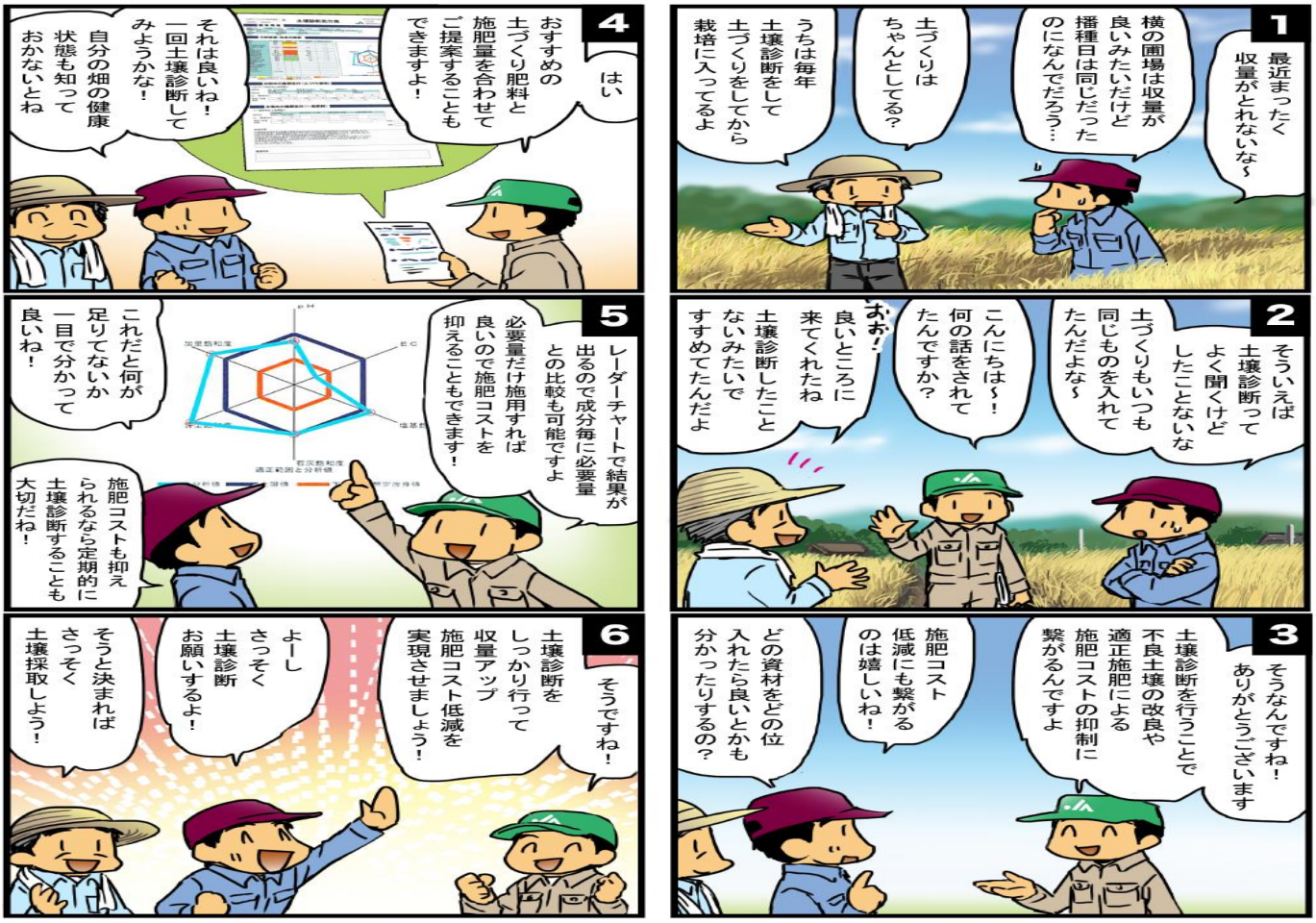
施肥量(目安)：100～200kg/10a

堆肥に含まれる腐植酸を 50%含み、地力維持と肥効の向上が期待できる。

施肥量(目安)　普通作：20～40kg/10a
園芸作：40～100kg/10a

一年の計は土づくりにあり！
いざ、土壌診断に基づいた土づくりを始めよう！★

プラスαマンガシリーズ第106弾！！



引用：発生予察情報（長崎県病害虫発生予察室）、アビネスアグリインフォ（JA 全農）、今こそ実践！見直そうカンキツの基本管理（佐賀県果樹試験場）

＊8 月号に記載されている内容はＪＡ全農ながさきのホームページに掲載されています。

ＪＡ全農ながさきホームページ URL：http://www.ns.zennoh.or.jp